

受 理 番 号	請願第 3 3 号
件 名	広島市に、子ども議会及び青少年議会を創設することについて
要 旨	広島市に、子ども議会及び青少年議会を創設することについて、下記の事項を連署をもって請願する。 記 1 広島市に子ども議会及び青少年議会を創設すること。 2 その議会に年間数百万円の予算を付け、議員は直接選挙によって選任させること。 3 それら若者の意見やこどもたちの声を十分に今後の市政に反映させること。 理由 現在、少子高齢化が広島市のみならず全国的な問題として大きく取り上げられている。特に少子化は著しいものであり、人口減少にも歯止めを掛けられていない状況である。そして若者やこどもなどの未来の広島市を担う世代への負担がどんどんと増えているにもかかわらず、市民の生活にとっても重要な市政及び政治への関心や興味が若者から薄れてきており、このままでは将来の市政に大きな悪影響を及ぼすのではないかと考える。若者の選挙投票率も依然低いままであり、原因として選挙やそれに関わる政治、市政というものが身近なものではないということが理由の一つとして挙げられるだろう。夜 7 時前か 1 0 時前に流れる 5 分程度の広報番組や、広報紙「市民と市政」などもあるが、学校の同級生に聞いても「何それ？」であったり、「見たことも聞いたこともない」という声が返ってくる。最近では、テレビや新聞、広報紙などを手にする若者も減っており、動画配信サイトやその他 SNS などから情報を得ることが増えてきている。インスタグラムや旧ツイッターなどには広島市の公式アカウントがあり、広報活動に使われているようであるが、それが実際に広報活動として、若者や若年層の市民に身近な存在として根付き、市政が身近なものとなっているかと言われると微妙である。だが、選挙や市政に興味や関心が湧かないのはそれらが身近なものとして存在していないと認識されているからではないだろうか。

要 旨	私はつい最近、選挙についての意見交換会に参加したのだが、意見交換をしたテーマの中に、選挙になぜ興味が湧かないのかというテーマがあった。このテーマを話している際に、私は知っている人物が少なかったり、若者の間では知名度が低すぎると発言したところ、これに共感してくれる人が多くいた。なので、今回請願をしている子ども議会及び青少年議会を創設し、その議員を直接選挙によって選任することによって若者の選挙の投票率が上がるのではないかと私は考えている。多くの若者が知っている人物と言えはきっと同世代の若者。近年インターネットなどでよく目にする機会が増えたインフルエンサー等が正にそれに当たるだろう。他にも、同級生や他校の友達も議員に立候補し、選挙にも来てくれるかもしれない。そうすれば、通常在市議会議員選挙や市長選挙など、他の選挙にも興味を持つきっかけにもなってくれたり、選挙や政治がより身近な存在として浸透していくかもしれない。また、自身の考えを広く公の場で考え合い、話し合っていく場も必要だ。お互いの主張や考えをぶつけ合い、いい部分を酌み取ったり、一つの意見としてまとめて、実行に移していくことこそが大事で、一緒に考えていける場も機会もない現状を変える必要があるはずだ。 このように、若者同士の選挙や政治の場を設けることによって、市政やその先の政治をもっと身近なものとして感じてもらい、なおかつ今後の市政にも活用するために、子ども議会、青少年議会の創設が必要であると考えている。 広島市では数年前から、市立高校の生徒が時々市議会にて自分たちが考えた提言を発表するというものがあるが、これはただただ大人たちに自分たちの提案を聞いてもらうだけで、しっかりと市政に反映されているのかと言われても、何とも言えないものであり、実際に発表をした知り合いの生徒から話を聞くと、居眠りをしていたり本当に話を聞いているのか疑うような態度を取っている議員もいたという。それに、広島市に住んでいるのは市立高校の生徒だけではない。県立、私立高校の生徒だって、市政に対して立派な意見や考えを持つ立派な広島市民の一人であるのに、議会に立つ機会すら与えられていない。 実際に私立高校に通う友人に聞いてみたところ、なぜ市立高校にだけこのような場が設けられているのか、不公平ではないのかと、不満を漏らしていた。意見発表で議場に上げられる人たちだけではなく、それ以外の多くの若い人からたくさんの意見や声が上がってきているというのに、それをないがしろにするのはいかなるものであ
------------	--

要 旨	ろうか。若者たちはとてもしっかりとした立派な提案をしているのに、現在のこの広島市のこの仕組みははっきり言ってちゃんと市民のためになっているとは思えない。他の自治体の事例では、愛知県の新城市では高校生や大学生らで構成される若者議会というものがあり、年間1,000万円までの予算議決権が与えられ、過去には数百万円の予算が実際の市議会で認められたこともある。他にも山形県遊佐町では少年議会というものがあり、実際に直接選挙を行い少年町長と少年議員を選出するという本格的なもので、年間数十万円の予算を使う権利も与えられている。さらに広島県でも似たようなものがあり、小学校から高校生までの有志を募り、年に一度知事と県議会議長を交えて予算議決権こそないが、幅広い世代との交流や意見交換ができるなど、本格的である。だが、広島市は人口が約120万人もいる政令指定都市であるにもかかわらず、やっていることと言えば市立高校の生徒による市議会での発表のみ。さらに、これも余り身近に浸透しているようには思えない。現在私は市立高校に通う生徒であるのだが、このような活動があること自体全く知らず、この発表自体やりたいと言って気軽に参加できるものでもない。去年の4月に施行されたこども基本法には、全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されることというのが基本理念としてあるが、果たして少子化が進む広島市においてそれを市政にいかすことができているのだろうか。 一番こどもや若者と近く、そして当事者であるこどもたちや若者で運営される子ども議会、青少年議会は、子育て支援や過疎化が進む地域課題解決への糸口になると私は強く信じている。物価高で生活に苦しむ同級生や先生、近隣の住民が減り、シャッターだらけになる住宅街の商店街、人口減少や私立高校への人気増加で減っていく公立高校の新入生。これらの問題を放っておけないと感じる高校生や若者は何も私自身に限った話ではないだろう。だがそれらの問題の解決を若者やこどもの視点で進められるのは、若者やこどもたちだけであるはずだ。そして今こそ、彼らの自由で無限に湧き出てくるアイデアと、大人顔負けの行動力をもってして市政に大きく反映させるべきときではないのだろうか。もし仮に、議会運営に多少の費用が発生したとしても、後々の大きな社会的な利益につながるのであれば、どれだけ資金を費やしても問題はないと言える。 高校を卒業間近の今日に至るまで、小学校高学年の時から、頭の
------------	--

要 旨	中で何年間もひそひそと考えていたことではあるが、これからの将来を担う世代の人たちにとっても、広島市にとっても、一人の市民の声として皆さんにしっかりと考えてもらい、今後の市政に反映させていただくよう心から強く請願する。
----------------	---